



～須木中校歌より～

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

春風や 関志抱きて 丘に立つ

高浜 虚子

遅ればせながら、明けましておめでとうござ
います。お正月はいかがだったでしょう。私も、
改めて日本人であることを思い出し、いい機会と
なりました。

ところで、十二支は、その昔農家が農作物の
生育に係る暦として利用していました。
今年の子(ネ)から始まる9番目の申(サル)
年。「申」は、「伸ばす」という意味があり、
「草木が十分に伸びきり、実が成熟して香り
と味がそなわり固く穀におおわれていく時
期」をいいます。実は「申」を多くの人が
分ける文字で表したのが「猿」だそうです。
申年は、「申(サル)」が「去る」という意
味を表し、「悪いことが去る」や「病が去る」
など、幸せがやってくる年にしたいという願
いを表すという一説もあるそうです。
ある番組で「五猿で五猿」はなんと読みま
すか?というものがありました。答?は:
「縁でござる」だそうです。なるほど!
2学期後半が始まりました。短い期間です
が、各学年でこれまでの集大成をしなければ
なりません。とりわけ3年生はいよいよ勝負
の時期です。これまで最上学年として、学校
を引っ張ってこきましたが、これから数ヶ月は
入試のことに集中してください。
入試は総力戦といわれます。これは、自分
も含め、「縁あって」同じ時期を生きている、
自分の仲間全員が志望校に行くために、自分
は何ができるか考えるということです。
「これまでの努力とこれからの努力」は、
みんなを決して裏切りません。
この1年は高校生活も含みます。
「選択の力」と「人との縁」がこ
れがこれからの大事なキーワード。



《相手を納得させる言い方、書き方》

3年生は入試で面接や作文があります。1、2年生も授業の中で、話し合いがあり相手を納得させたいときがあります。相手を納得させる方法は、基本的に2つあります。「帰納法」と呼ばれる方法と「演繹法」と呼ばれる方法です。この言葉自体を覚える必要はありません。

帰納法とは、例えば、理科の実験で「A班は測定値が10℃だった。B班もC班も10℃だった。だからこのときの温度は10℃だ。」のように、多くの同じ例から結論を導き出す方法です。

演繹法とは、「○○だから、◇◇だ。」ということをつないで結論を出す方法です。例えば「野菜は栄養がある。にんじんは野菜だ。だからにんじんは栄養がある。」という方法で、三段論法ともいいます。ここでは、演繹法で人が納得する話し方、文章の書き方のコツを考えてみます。

手順1: 結論から考える。手順2: その理由を考える。手順3: 理由を大きな枠にはめる。

(例) 明日の休みに、友達と遊びに行きたいので、親を納得させたい。

手順1 (結論) 明日友達と遊びに行きたい

手順2 (理由) 「友達から誘われたから」という理由にしよう。そこで親に……

「○○から誘われたので、明日遊びに行ってもいい？」 まあまあですね。

さらに納得感を高めるために、もう一押し! 手順3をいれる。これがミソ……

手順3 (大きな枠) 友達には大切にしないといけない(誰もが反対しない内容)

「友達には大切にしないといけないと言われているよね。○○から誘われたので、明日遊びに行ってもいい？」

やるね! こうくると、なかなか「だめ!」と言いつらい。

大きな枠とは、多くの人が反対しようがない内容です。(これを一般的・普遍的な前提といえます)



(例題) A高校の面接で、「なぜこの高校を希望したのですか」の質問に、面接官が納得する答を言いたい。さあ、どう言いますか。(3年生! 考えて校長先生まで言いに来て下さい)

ちょっとしたことですが、人とのコミュニケーションの中で、自分の考えや主張を言ったり書いたりするとき大いに使えます。特に3年生は入試で是非生かして下さい。

「人とコミュニケーションをとることはとても大切です。(大きな枠) 私は、自分の考えを分かりやすく伝えるために、(理由) 人を納得させる話を心がけます。(結論)」 こんな感じで話を進めましょう!!